

令和2年度第2回シンポジウム
中山間地域から考える地域循環共生圏の可能性
—全国先進地及び京都におけるSDGs・資源循環分野の取り組み事例を中心に—

環境省、廃棄物資源循環学会

〔趣旨〕 気候変動の緩和や循環経済の実現が喫緊の課題となっていることを踏まえ、ごみ処理施設におけるエネルギー回収やその利用の高度化や多様化は、国際的な潮流となっている。また、持続可能な開発目標（SDGs）が示され、各分野において持続可能な地域やコミュニティ構築のための取り組みが進展している。

我が国においては、第5次環境基本計画において目指すべき社会の姿としてローカルSDGsとも称される「地域循環共生圏」のビジョンが示された。これは、地域資源を活かし、自立・分散型の社会を形成しつつ、近隣地域と連携し環境・社会・経済について統合的に課題解決し、脱炭素とSDGsを実現しようとするものである。特に、我が国に多く存在する中山間地域にあっても、地域の持続可能性の課題解決を目指す上での示唆を大いに与えてくれるものと考えられる。他方、コロナ禍においては、こうした地域の存在価値が改めて見直されており、社会や人のグリーンリカバリーに向けて、欠かせない存在とも考えられる。

これらを踏まえ、本シンポジウムでは、京都における持続可能な地域づくりに関する取り組みやビジョンについて自治体の長たちよりお話を伺った後、資源循環分野において、主に中小規模廃棄物処理施設の組み合わせによる地域循環共生圏形成への道筋について事例発表及び討論を行うこととした。

〔主催〕 環境省、廃棄物資源循環学会 〔後援〕 京都府、京都市、南丹市、京都超SDGsコンソーシアムほか（予定）

〔日時〕 令和2年11月10日（火）13:30～18:00（受付は12:30より開始 ※11/6事前オンライン講義の様子を上映）

〔会場・実施方法〕 オンライン&オンサイト（京都府立ゼミナールハウス「あうる京北」京都市右京区京北下中町鳥谷2）

〔定員〕 オンライン300名、オンサイト100名（事前申込み制）〔参加費〕 無料 〔参加申込〕 学会WEB（<https://jsmcwm.or.jp/>）

〔プログラム〕 事情により変更する可能性があります。

13:30 開会の挨拶

京都府知事 西脇隆俊
環境省環境再生・資源循環局 次長 松澤裕
廃棄物資源循環学会 会長 吉岡敏明（東北大学）

13:45 資源循環分野における地域循環共生圏形成について（仮）

環境省廃棄物適正処理推進課

<先進地事例紹介>

14:05 有機系廃棄物資源化と木質系バイオマス事業への道のり 岡山県真庭市

太田昇市長（ビデオご挨拶）
真庭市総合政策部 部長 有元均

14:35 質疑（環境省からの話題提供への質問を含む）

<京都の事例紹介>

14:45 SDGs先進地・京都市における取組（仮）

京都市 門川大作市長

15:10 バイオマス利活用先進地・南丹市「森、里、街、ひとがきらめくふるさと」を目指した取組

南丹市 西村良平市長

<パネルディスカッション>

15:45 コーディネーター：廃棄物資源循環学会 酒井伸一（京都大学）

パネリスト：京都高度技術研究所アステム（ASTEM）（多様なバイオマス技術システム） 中村一夫
南丹市八木バイオエコロジーセンター（湿式メタン発酵処理施設） 事務局長 中川悦光
森の力京都株式会社（木質ペレットの製造販売） 社長 久保和則
南丹市農林商工部農山村振興課 課長 片山正人
京都市右京区京北出張所 所長 大東一仁
環境省廃棄物適正処理推進課（調整中）

17:40 ご案内 地域再エネを最大限導入するための体制構築に向けた令和3年度環境省予算事業について

環境省環境計画課

17:50 閉会の挨拶

廃棄物資源循環学会 理事 浅利美鈴（京都大学）

【事前オンラインレクチャー】 令和2年11月6日（金）16:00～17:00 ※学会WEBにて要申込
農業分野における地域循環共生圏の考え方と事例 間藤 徹（京都大学名誉教授）